

第2部 法定後見Ⅳ

第4章 成年後見監督人等の実務

1 総論

Q322	成年後見等監督の意義	1315
Q323	成年後見監督人等の選任手続	1319
Q324	法人後見監督	1325
Q325	成年後見監督人の欠格事由	1328
Q326	成年後見監督人等の職務	1332
Q327	成年後見監督人等の責任	1338
Q328	成年後見監督人が心がけること	1343
Q329	保佐監督人・補助監督人に特有の注意すべき事柄	1347

2 成年後見監督人等の実務

Q330	成年後見人等に対する初期段階での指導	1351
Q331	財産目録作成への立会い	1358
Q332	財産目録精査の際の注意点	1363
Q333	成年後見監督人等としての成年後見人等との関係の つくり方	1367
Q334	親族間に争いがある場合の注意点	1373
Q335	財産管理の指導	1375
Q336	利益相反行為の代理	1379
Q337	成年後見人等が欠けた場合の新たな成年後見人等選任 請求	1382

Q338	急迫の場合における必要な処分	1386
Q339	家庭裁判所への報告書の提出	1390
Q340	成年後見人等に不正が発覚した場合の対応	1394
Q341	成年後見等監督の費用	1398
Q342	成年後見監督人等の報酬	1401

3 後見監督の終了をめぐる実務

Q343	終了の原因	1405
Q344	本人死亡時の手続の流れと注意点	1410
Q345	辞任の際の手続の流れと注意点	1414

第5章 後見終了をめぐる実務

1 総論

Q346	後見終了の原因	1417
Q347	本人死亡の場合の成年後見人等の地位	1422
Q348	本人死後の成年後見人等の職務と手続	1427
Q349	管理の計算、終了の報告	1432
Q350	後見終了時の報酬付与の申立て	1436
Q351	終了の登記	1439

2 本人の死亡をめぐる実務

Q352	本人の財産の相続人への引継ぎ	1442
Q353	本人の財産が債務超過の場合の相続人への引継ぎ	1447
Q354	相続人がいない場合の相続財産管理人選任申立て	1452
Q355	葬儀生前委託契約	1457
Q356	本人死後の賃借権・家財道具の処理	1460
Q357	本人死後の債務の支払い	1464

Q358	本人死後の葬儀・葬祭	1467
Q359	やむを得ず葬儀を行うときの注意点	1470
Q360	永代供養	1473
Q361	年忌法要	1477
Q362	墓地・墓石の購入と墓の建設	1481
Q363	成年後見人を特別縁故者として財産分与請求をすること の可否	1485

第3部 任意後見

第1章 任意後見開始に向けた実務

1 総論

Q364	任意後見法制定の背景	1490
Q365	任意後見と法定後見の違い	1493
Q366	任意後見を利用する動機や事情	1498
Q367	任意後見を利用するための手続	1501
Q368	任意後見契約と本人の意思能力	1505
Q369	任意後見と補助の選択	1508
Q370	任意後見契約の利用形態——将来型、移行型、即効型	1511
Q371	任意後見契約を利用しようとする人の相談を受ける際の 注意点	1514
Q372	任意後見人の不適格事由	1518
Q373	任意後見と法人後見	1521
Q374	複数の任意後見人	1524
Q375	在日外国人の任意後見契約の利用	1526

Q376	任意後見と法定後見の関係	1529
Q377	任意後見・任意代理の濫用防止	1532
Q378	任意後見監督人選任申立てまでの見守り契約	1535

2 任意後見契約の締結

Q379	任意後見契約を結ぶ際の手続と注意点	1538
Q380	重要事項の説明	1545
Q381	信託関係の構築	1548
Q382	任意後見契約の内容	1550
Q383	将来型の契約方法と注意点	1555
Q384	移行型の契約内容と注意点	1558
Q385	即効型の契約内容と注意点	1561
Q386	財産管理等委任契約	1564
Q387	任意後見人の報酬	1567
Q388	任意後見人の報酬の変更	1572
Q389	任意後見契約の内容を変更する場合	1575
Q390	死後事務委任契約	1578
Q391	死後事務のための預り金	1585
Q392	身元引受けを任意後見契約の内容とすることの可否	1589
Q393	医療同意を任意後見契約の内容とすることの可否	1591
Q394	ライフプランの作成	1595
Q395	尊厳死宣言公正証書	1600
Q396	任意後見監督人選任申立てのタイミングと本人との 意思疎通	1604

3 任意後見契約と公証人

Q397	任意後見契約に関する公正証書を作成する際の手続と 注意点	1607
-------------	---------------------------------	------

Q398	委任者の判断能力と契約意思の確認	1611
Q399	任意後見の登記	1614
Q400	不適切と思われる契約への対応	1617

4 家庭裁判所への申立て

Q401	任意後見監督人選任の申立て	1619
Q402	任意後見監督人の辞任許可の申立て	1622
Q403	任意後見人の解任の申立て	1624

第2章 任意後見開始時の実務

1 任意後見人の実務

Q404	任意後見人の権限と職務	1627
Q405	関係機関への届出・手続	1633

2 任意後見監督人の実務

Q406	任意後見監督の意義	1636
Q407	任意後見監督人の欠格事由	1640
Q408	任意後見監督開始時の実務	1642

第3章 任意後見人・任意後見監督人の実務

1 任意後見人の実務

Q409	任意後見人として心がけること	1644
Q410	財産管理事務と身上監護事務	1650
Q411	事実行為	1654
Q412	医療行為の同意	1657
Q413	身元保証・身元引受け	1663

Q414	悪質商法による消費者契約の取消し	1666
Q415	任意後見事務の報告	1670
Q416	復代理人選任の可否	1673
Q417	報酬を受領する際の注意点	1676

2 任意後見監督人の実務

Q418	任意後見監督人の職務	1679
Q419	任意後見人との打合せ	1682
Q420	財産目録の徴求	1685
Q421	定期的な報告の受領と精査の際の注意点	1689
Q422	不適切な後見事務がなされていた場合の対応	1692
Q423	家庭裁判所への報告	1695
Q424	急迫の事情がある場合の必要な処分	1697
Q425	利益相反行為の代理	1700
Q426	任意後見監督の費用	1704
Q427	任意後見監督人の報酬	1707
Q428	任意後見監督人であった者の法定後見申立権	1710

第4章 任意後見の終了をめぐる実務

1 総論

Q429	任意後見の終了の原因	1712
Q430	法定後見への移行による任意後見の終了	1716

2 委任者の死亡

Q431	任意後見契約発効の前に本人が死亡した場合	1719
Q432	任意後見契約発効後に本人が死亡した場合の任意後見人の位置づけと職務	1721

Q433	死後の事務——任意後見人の権限外の行為への対応……………	1727
Q434	遺体の引取り……………	1731
Q435	死亡届、火葬・埋葬許可手続……………	1735
Q436	賃借家屋の明渡し……………	1737
Q437	生前債務の支払い……………	1740
Q438	相続人等への財産の引渡し……………	1743

3 任意後見契約の解除

Q439	任意後見契約の解除……………	1749
-------------	----------------	------

4 任意後見監督の終了

Q440	任意後見監督の終了の原因……………	1753
Q441	本人死亡時における任意後見監督終了の手続の流れと 注意点……………	1756

●事項索引……………	1759-1
●第4巻編著者一覧……………	1759-3

付録

①民法等改正法により変更された本人宛ての郵便物の取扱い……………	1760
②Q&A 成年後見実後全書総目次……………	1765